



文星芸術大学
附属中学校・高等学校
〒320-0865
宇都宮市陸町1-4
電話(028)
636-8000(中学直通)
636-8585(高校直通)
http://www.bunsei-art.ac.jp
発行 教務部・学報編集係

日本の誇り、世界の KAKIEMON

文星芸術大学附属中学校・高等学校校長 上野憲示



ソチの冬のオリンピックの話題で持ち切りのこの二〇一四年二月、やはり日本文化の歴史的海外発信の一つ、国指定無形重要文化財柿右衛門窯の、そのご当主酒井田柿右衛門十五代襲名がなされました。江戸時代のはじめ十七世紀後半、鎖国中ながらも、日本の有田の焼き物、柿右衛門が長崎出島からオランダの商社「東インド会社」の仲介でヨーロッパに輸出されていました。そ

これらの名陶は、かの地の王侯貴族達の好んで蒐集するところとなり、何とこれが呼び水となりヨーロッパでマイセン等の磁器の生産が始まったのです。元来、磁器の生産の本拠地は、中国景德鎮ですが、十七世紀前半、中国の明王朝が倒れて清王朝が立ち、これまで栄えていた景德鎮の磁器産業が輸出ストップとなります。その時ピンチヒッターとして選ばれたのが、ほかならぬ日本の九州有田の焼物です。そもそも、朝鮮の役に際して、秀吉の命で、九州の大名鍋島直茂は李参平ら優れた朝鮮の陶工達を連れ帰りましたが、有田泉山

で磁器の原料となる磁石鉱脈が発見されたこともあって、彼らが日本の地で、はじめ朝鮮風の、ほどなく唐人仕込みの本場中国風の、磁器を定着させ完成度を高めていたのです。直茂の子、鍋島勝茂は、関ヶ原の合戦に際し西軍に加担した負い目から、ひたすら將軍家並びに幕府重役への景德鎮磁器など高級焼物の献上に努めていました。藩の殖産興業の実が上ったこともあり、その折々の上質の有田の磁器がこれに替わります。当初、民窯の代表窯の一つ泉山に近い楠木谷窯(正保寛文初)から出発した酒井田柿右衛門家は、のち

文星芸大附now!
は、平成17年4月に「文星芸術大学附属中学校」の開校に合わせて発刊されました。

に西方の南川原に移って現在の拠点地に柿右衛門窯を築きました。初代柿右衛門は、はじめの楠木谷窯で、古九谷様式の染付(藍九谷)とちよつとくすんだ色調の色絵を制作しました。晩年、南川原に移って、はじめは藍九谷の染付中心の作陶でしたが、まもなく許されて染付及び色絵双方の革新に着手したのでしょう。柿右衛門窯では寛文末ごろに、製品の傾向が古九谷様式から、晴れやかな明るい調子の和様の柿右衛門様式へと劇的に変わります。そして、前述のように、景德鎮のピンチヒッターとして、寛文の半ばから延宝・元禄にかけ、西欧への輸出特需に、その主たる担い手として、ヨーロッパの王侯貴族達の受注に沿うべくフル回転で磁器生産がなされたのです。以上のことからは、まさしく日本の柿右衛門や古

伊万里の名品が、ヨーロッパで一種の日本ブーム(ジヤポニスム)を引き起こし、いかに海外に熱狂的に迎えられたかの栄光を物語るものとして、ここに改めて胸を張って誇り得るものなのです。

1 p	< 巻頭言 学校長より >
2 p	< 高校 卒業生へ贈る言葉 >
3 p	< 高校 卒業生表彰者一覧 >
4 p	< 高校 輝け!! 文星健児 >
5 p	< 中学 卒業生へのメッセージ >
6 p	< 中学 社会体験学習・スキー教室 >
7 p	< 中学 立志式・表彰関係 >
8 p	< 文星 フォトギャラリー >



同マイセン倣製品



柿右衛門色絵梅鶯文輪花皿

高校行事予定

1日(土)	第六十八回 卒業証書授与式
3日(月)~6日(木)	学年末考査
6日(木)	身体計測・個人写真撮影
7日(金)・10日(月)	追試験
15日(土)	新入生オリエンテーション (第一回)
21日(金)	新入生オリエンテーション (第二回)
24日(月)	第一・二学年修了式
25日(火)	在校生登校日 (教科書購入)
4日(金)	在校生登校日
7日(月)	入学式
8日(火)	第一学期始業式・対面式

中学校行事予定

1日(土)	高等学校卒業式
13日(木)	表彰式(卒業式予行)
14日(金)	第七回卒業式
15日(土)	新入生オリエンテーション
24日(月)	一・二年生修了式
4日(金)	在校生登校日
7日(月)	入学式
8日(火)	第一学期始業式・対面式

高等学校

卒業生へ贈る言葉

新たな海路を目指して



副校長 富田 誠

「イメージの詩」(吉田拓郎)の一節に「古い船には新しい水夫が／乗り込んで行くだろう／古い船を 今動かせるのは／古い水夫じゃないだろう／なぜなら古い船も 新しい船のように／新しい海へ出る／古い水夫は知っているのさ／新しい海のコワさを」とある。かつて、黄金の国、ジパングに憧れ、西廻りの海路を開拓しようとして漕ぎ出したクリストファー・コロンブスのように、こわさを知らない新しい水夫だからこそ進める海路がある。やってみなければ分からない、ということばこそ若者に似合うだろう。失敗もキャリア。経験として積み重ねて行けば、より好く歳を取ることが出来るだろう。

若い時の苦労は買ってでもしろ、という言葉もあるが、今の若い人たちの中にはこれを否定する者も少なくない。今しかできないことを楽しくやりたい。自分のやりたいことだけをやりたい。自分を中心に考え、失敗することを恐れる。失敗すると、耐えることができない。そんな若い人たちが多いのだが、苦労のない人生なんてあるわけがない。失敗のない人生も然りだ。山あり谷ありの人生を、前を向いて楽しむ。そのような心を持って生きて行こうと思う。



第三学年主任 大越 研介

巣立ち考

また、この季節がやってきた。三年間、この文星という巣の中で皆とともに互いに信じ合い、競い合い、語り合い、そして高め合った同輩達と別の方向に旅立たねばならない。

学年担当教員より

今、友の顔を見よ。たくさん思い出がよみがえる。一年入学時、右も左も分らなかったが、これからの高校生活に胸をふくらませていた。一日バス旅行で友達ができ、楽しくなってきた。二年、学校内では充実した生活を送り、部活でも中心的な存在として活躍できた。修学旅行で行った沖繩では、栃木とは全く異なる気候風土の中で強烈な印象(インパクト)を受けた。三年では一・二年生の模範となることを知り、学校の代表として活動することも多くなった。最後の秀文杯では友と躍動し、勝利を喜びあつた。雄飛祭でもクラス一丸となり目標を達成した。次に目を閉じよ。過去にあった数々のシーンにおいて、自分の対応が、少しずつ、少しずつ変わってきているのが分かると思う。一歩ずつ上っているのである。大人への階段を、成長の高みへと。すばらしいことだと思ふ。そしてその階段を上っている時に、我々教師がその途中(踊り場)にいたこと、少しだけ手を添えられたことに感謝する。

(副主任 長谷川 聡)

どんな人間も、自分が思っている以上のことができる。自分で限界を作らず、常に挑戦し続けてください。

(生徒指導 渡辺 誠)

進路実現のため、仲間とともに打ち込んだ日々は、かけがえのない宝物です。青年よ大志を抱け！この私達のように。

(梶川 崇)

できることは何か？
できないことは何か？
できることは確実にやる。
できないことはできるだけようにする。

(佐藤 史徳)

別れると言うことは、出会ったということ。出会いがあったことに感謝をして、君たちの出発を祝います。

(森本 浩雅)

未来はまだ何も決まっていない。進むも曲がるも止まるも戻るもキミが決める。自由に羽ばたけ!!

(安達 佳奈子)

全力に悔いなし。君たちならどんな壁も乗り越えられると信じています。カッコいい男になってください。

(関塚 貴光)

文星での出会いや学んだ事を大切に、自分の夢を追いかけて下さい。新たな場所での活躍を期待しています。

(中田 裕市)

素直とわがままは違います。素直な気持ちを忘れずに歩んで下さい。

(田中 恵)

ある人の「名言」の一つ。「努力」より先に「成功」が出るのは辞書の中だけ。応援しています。

(田口 純平)

何事も幸せに感じる事ができれば、輝く明るい未来が訪れるであろう!!

(佐藤 輝明)

宝くじは買わなければ当たりません。何事に対しても成功に向けて行動できる人間になって下さい。

(野村 勇司)

自分の選んだ道に自信をもって頑張ってください。いつも応援しています。人生一度きり。何事にも笑顔で楽しんで。

(荒井 千穂)

人に勝つことよりも、自分に負けない人を目指し、自分のためにだけでなく、人のために、汗と涙を流せる人になって下さい。

(伊沢 修一)

素直な心、感謝の気持ちを忘れずに！

(池澤 昌憲)

「大きく転べ！氣付いた誰かがきつと助けてくれる。」失敗を恐れずチャレンジしよう。必ず誰かが力になってくれる。

(石渡 佑一郎)

これからの事は天にまかせ今のことは自分で決めるそれがいちばん

(岩泉 徳栄)

自分の人生なんだから。自分で走れ。

(星野 英雄)

目標を持つことで



第11期生徒会会長
セイイイワノ せな
セイイイワノ せな
(3年5組)

皆さんは目標を持っていますか。私は目標を持っていたからこそ、充実した三年間を送ることができました。何に対しても目標を持っていけば、それに向かい努力をし、諦めずに取り組むことができ、自然と充実した学校生活が送れるものと私は思っています。現在、目標を持っていない人も、是非今から作って



第12期生徒会会長
タカヒロ 舞
(2年4組)

成長は充実

第十二期、生徒会長になりました。舞木君です。一年間学校行事を中心に頑張っていました。充実した一年を送りたいと思います。

私は、二年間の高校生活を通して、高校という場は「自分自身と向き合う場」と感じました。例えば、勉強や部活動などで、自分の思い通りに行かないことや辛いことがあると思います。

みてはいかががでしようか。私のように充実した生活を送れること間違いありません。また、目標があれば、人間として成長できるはずで、目標を達成するためには、楽しいことだけでなく、辛いこともあるでしょう。それでも目標があるからこそ、耐えることができ、その中で考え方が変わり、行動も変わってきます。それが、成長だと思っています。

皆さんも目標を持ち、色々なことにチャレンジしてみてください。きっと成長した新しい自分に巡り合えるはずですよ。

しかしそんな時、自分で解決しようと考え努力することが人間としての成長につながる、社会に出てからの自立ができるのだと思います。この生徒会長という立場を通し、私もより成長できるように努力したいと思えます。また、本校には雄飛祭や秀文杯など楽しい行事ばかりです。去年を軸に何かプラスしてより充実したものに出来るよう頑張りたいと思います。皆さんも何か良い意見があれば遠慮せず生徒会に声をかけてください。ご協力宜しくお願いします。

表彰者一覧

学校長賞 三年十一組

(学年クラス皆勤)

十二カ年皆勤賞

篠崎 優樹

三カ年皆勤賞

長谷川 弥

一カ年皆勤賞

鈴木 聖弥

日本私立中学・高等学校連合会会長賞

菅谷 直樹

全国商業高等学校協合理事長賞

青木 一晟

宇都宮商工会議所会頭賞

近藤 将太

全国経理教育協会会長賞

栃木 哉輝

栃木県産業教育振興会会長賞

他二名

産業教育振興中央会会長賞

吉成 敦

栃木県バスケットボール協会優秀選手賞

大森 太郎

栃木県高等学校体育連盟優秀選手賞

大出 航平

栃木県高等学校文化連盟連盟賞

迫田 樹

部活動精励賞

人見 悠太

他二十六名

校内読書感想文コンクール

(学校長賞) 酒井 悠介

(作品賞) 小島 里樹

(努力賞) 渡邊 澄

校内漢字テスト年間優秀賞

竹内 圭汰

他三十一名

検定試験取得状況

(二月末現在)

第77回全商簿記検定

【原価計算一級】

遠藤 岬 成瀬 裕介

【二級】

遠藤 岬 大森 翔真

神山 丈 高橋 楓哉

成瀬 裕介

【三級】

荒井 大輝 飯島 海人

伊藤 大輝 内川 渚生

岡 慶悟 金田 幸祐

北原 裕大 木村 哲也

小林 隆晟 佐瀬 裕也

鈴木 陽太 高橋 翔悟

中丸 幹 平野 吾紋

細谷 祥吾 三森 崇弘

涌井 隆行 渡邊 大雅

柏崎 琢磨 木村 亮

見目 頼紀 齋藤 友輔

原 健斗 柳 竜一

蓬田 裕斗 白井 勇貴

加藤 匠 人見 英範

皆川 旅駆 村瀬 淳哉

第50回全商情報処理検定

【ビジネス情報部門二級】

大森 翔真 瀬浪 悠真

高橋 楓哉 成瀬 裕介

第28回全商商業経済検定

【三級】

内川 渚生 金田 幸祐

瀬野尾拓也 涌井 隆行

渡邊 大雅 久保田 伸

加藤 匠 狐塚 雄哉

鈴木 大知 人見 英範

第50回全商ビジネス文書

検定

【速度部門一級】

涌井 隆行

【速度部門二級】

金田 幸祐 小川 雄樹

木村 亮

【速度部門三級】

荒井 大輝 岩本 康太

内川 渚生 北原 裕大

君嶋 竜一 黒川 鎮寛

鈴木 竜義 鈴木 稔也

瀬野尾拓也 高橋 翔吾

細谷 祥吾 細谷 泰希

吉澤 将吾 鹿沼 宏行

小森谷将太 齋藤 優悟

滝川 暁大 原 健斗

箕輪 竜司 蓬田 裕斗

【速度部門四級】

伊藤 大輝 岡 慶悟

佐瀬 裕也 高嶋 寿剛

中丸 幹 平野 吾紋

海老原景太 笠原 巧未

柏崎 琢磨 加藤 健

龜田 有季 木野内彰太

黒崎 洋佑 見目 頼紀

齋藤 友輔 永井 隼人

若林 和暉 飯塚 啓介

小平 哲郎

第115回全経電卓検定

【一級】

石川 亮太

鬼澤 悠介 吉沢 良太

【二級】

加藤 匠

鈴木 駿弥 長本 隼典

【三級】

江連 和也

鈴木 健人 諏訪 直人

第59回北関東簿記検定

【一級】

遠藤 岬

【二級】

成瀬 裕介

【三級】

荒井 大輝 飯島 海人

伊藤 大輝 岩本 康太

内川 渚生 大村 浩平

岡 慶悟 金田 幸祐

北原 裕大 木村 哲也

小林 隆晟 鈴木 竜義

鈴木 陽太 高橋 翔悟

中丸 幹 平野 吾紋

細谷 祥吾 三森 崇弘

涌井 隆行 渡邊 大雅

原 健斗 加藤 匠

皆川 旅駆

食物調理技術検定

【三級】 六十三名合格

【四級】 百二十三名合格

高所作業特別教育修了

五十五名

小型車両系特別教育修了

四十六名

普通救命講習修了

七十四名

輝け!! 文星健児 部活動報告

一月から二月にかけて行われた大会の、主な結果をご報告します。
※(普)≡普通科

卓球部

東京卓球選手権県予選

文星現役 OB組優勝!!

一月十三日(月)に第66回東京卓球選手権大会(一般の部)県予選会が行われた。ダブルス決勝戦、本校卓球部の迫田樹(普三年)・鈴木誠(本校OB)組は大貫吉澤組(卓心会)を破り、三月十二日(水)から十六日(日)に東京体育館で行われる本選出場を決めた。

バスケットボール部

関東新人大会出場

二月八日(土)に千葉県で第24回関東高等学校新人バスケットボール大会が開催された。

一月に行われた県予選決勝リーグの大混戦を制し、3年連続で本選に駒を進めた本校バスケットボール部。1回戦で昌平高校(埼玉)と対戦し、惜しくも敗退した。

柔道部

全国選手権県予選

佐藤・山田両選手準優勝

一月十八日(土)、十九日(日)に行われた第36回全国高等学校柔道選手権大会県予選大会団体の部で、本校柔道部は準決勝戦で國學院栃木に敗退し、惜しくもベスト4となつた。

また個人81kg級で佐藤佑太朗選手、90kg級で山田大貴選手(ともに普二年)がともに準優勝。60kg級で関一樹選手、73kg級で松本康佑選手、90kg級で伊藤城選手(いずれも普二年)が3位に入賞した。

剣道部

県新人大会団体3位入賞

一月十八日(土)、十九日(日)に開催された県高等学校新人剣道大会に、本校剣道部が出場した。

準決勝戦、本校勢は佐野日大に敗れ、惜しくも3位入賞となった。



センター試験受験者 激励会

大学入試センター試験前日の一月十七日(金)、中高一貫棟大会議室にて激励会が行われた。

三年生にとって大学入試への第一関門であり、三年間の成果を試される試験を控え、不安と緊張で複雑な様子であった。「合格」はちまきを締める三年生は、先生方から試験への心構えやアドバイス、下級生から激励のメールや寄せ書きを贈られ、二日間にはわたる長い戦いへの闘志を新たにしていた。

総合体験

一月十六日(木)、二年十三組ITビジネスコースの生徒30名は、総合体験の一環としてキユーピー五霞工場(茨城県)見学に行った。一分間で600個もの卵を割る機械の動きは圧巻で、殻などが再利用されていることを知った。

また二月六日(木)には日光市にて手作り体験を行った。太子食品では豆腐作りを、丸彦製菓では煎餅焼きを体験したが、苦戦しながらも真剣に取り組んでいた。



一月二十五日(土)、栃木県教育会館大ホールにて、第15回文星ジョイントコンサートが開催された。

第1部「文化部ステージ」では、本校和太鼓部の演奏からオーブニングを飾り、女子高バントントワリング・吟詠剣詩舞・合唱部の熱演と続き、日常では見ることのできない表情で、真剣な眼差しだった。

第2・第3部は文星ジョイントバンドによるステージ。第2部「吹奏楽ステージ」

では県吹奏楽コンクールで演奏された曲をはじめ、エネルギッシュな演奏が練り広げられた。第3部「ポップステージ」では、ミッシェル・インポッシブルのテーマから始まり、迫力のある演奏からスタートした。観客席からは驚きの表情も見えた。そして子どもから大人まで楽しめるアニメヒロインメドレー(サリーちゃん・プリキュアなど)などバラエティーに富んだ曲を含め、15周年の感謝を込め、「ありがとう」を演奏し、ホールに響き渡る音は優雅な余韻を残していた。

吟詠詩・舞

二月二十日(木)に、本校体育館にて予餞式並びに予餞会が実施された。

式は厳粛に行われ、三年生たちは校長先生や副理事長先生から贈られた言葉を心に刻んでいた。予餞会では後輩達の進行の下、芸人の「流れ星」によるステージ、在校生のバンド、新任の先生方のおし物などで大いに盛り上がった。

在校生、恩師たちの「餞」の言葉に胸を熱くした三年生の表情は、新たな一歩への希望で溢れていた。

文星散歩道

(題字 大木教頭)

28

五感を磨く

高橋 伸夫 (国語科)

高校生の頃、私は俳句があまり好きではありませんでした。作者が何を言いたいのかよくわからなかつたからです。例えば、正岡子規の「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」という句も、「で、何を言いたいの?」という感じでした。改めてこの句を見直してみると、十七文字の世界の奥深さに圧倒されます。まず、色づいた柿の鮮やかな朱色が目に浮かびます。そして、かじった瞬間に口の中に広がるみずみずしい柿の味わい、鼻から抜けるほのかな甘み。さらには、秋風に乗り一面に響きわたる法隆寺の鐘の音。空間的な広がりがだけでなく、過去から現在への時間的な広がりがまでも感じることができます。ああ、何とも言えぬ美しさ! 俳句は意味をあれこれ考えるよりも、五感で味わうべきものだったのです。

まもなく桜の季節です。今年は桜を五感で味わってみてはいかがでしょう。かみ目で見て楽しむのはもちろんのこと、花を揺らす春の風や鳥の声にも耳を澄ませてみる。頭の上に舞い散る花びらを払いのけたりせず、そっと手に取り、鼻に近づけて春の匂いをかすかに感じる。こう見ると、五感のうち味覚だけが足りません。だから、人々は花の下で団子を食べるのかもしれない。

五感を磨くと、より豊かに世界を感じ、より豊かに世界を生きることができそうです。春はその絶好の機会です。

中 学 校

卒業生へのメッセージ



副校長 中山 一郎

「星」がおもしろい。夜空にきらめく無数の星。その星々の並びをたどると何か形が見えてくる。それが「星座」である。

西洋と東洋・中国では見方考え方が異なるから「星座」の形や呼び名も違う。たとえば「北斗七星」は西洋で言う「おおぐま座」の一部であり、熊の腰から尻尾の部分にあたる。我が文星の校名も古代中国でいう「北斗七星」のうち「文昌星」から由来している。

「海星」と名のつく学校も全国に何校かある。これも「星」に由来しているのかもしれない。調べてみるのもおもしろいだろう。

北斗七星とその先にある北極星はその昔、海をゆく船乗りの、砂漠を歩く隊商の進路の指針であった。また西洋でも東洋でも古来か

ら「星」をもとに人の行く末を占ったりもしている。星は空ばかりでなく人の心の中にも光っているものらしい。

与謝野晶子の歌に『冬の夜の星君なりき一つをば云ふにはあらずことごとく皆』というのがある。亡き夫鉄幹を想つての歌であるという。

さて、空の星でも地球に近いのが惑星。恒星と違ってその動きはおもしろい。中でも金星の動きが実におもしろい。見かけの大きさ（視直径）や明るさ（光度）がその時によって大きく変化するように満ち欠けをするのである。しかしいつでも見えるわけではない。「宵の明星明けの明星」と言われるように日没直後か日の出直前にしかよく見えない。この金星の満ち欠けを見た人はそう多くはないだろう。機会があったらぜひ見てみたいものである。

この「金星」読み方を変えれば「さんぼし」。大相撲で平幕の力士が横綱に勝ったときの勝ち星で、大活躍を意味する。卒業する諸君のこれからの活躍の金星を期待したい。



3学年主任 稲澤 雅夫

今、終わろうとしている中学校時代。喜怒哀楽に満ちあふれたドラマだったはず。愉快な四十一名の仲間と過ごすことで「喜」や「楽」は十分味わえたでしょう。そこには無意識のうちに信頼とお互いを思いやる心が君たちの中に育つてきていたのです。

しかし、「怒」や「哀」に苦しんでいたときの自分も当然いたはず。友達のこと、勉強のこと、部活のこと。それは友達に対する怒りや、自分に対する情けなさかもしれない。しかし君たちはもがきながらもこれらの障壁を乗り越え、たくましく成長した姿を見せてくれていました。今後、困難に遭遇し挫折を味わうことを何度となく経験しますが、そのときそれを己を磨くチャンスのもともと思えば、なんといい。また立ち上がる工夫と努力をすれば……。「七転び八起き！」



3年1組担任 井上 千津

私が文星芸術大学附属中学校で勤務し始めたのは、みんなが入学してきた年でした。「先生、〇〇はどこにあるのですか。」と聞かれても、「私も知りたい……」と答えていた四月。あれから三年経ちました。担任として過ごした二年間はあっという間でした。笑って過ごした日々のおかげで、笑いじわが増えました。若いパワーに負けないようにと、しっかり食事をとったおかげで、少し成長？しました。何気ない毎日の会話がなくなると思うとちょっと寂しいです。みんなの明るく素直な人柄は、これからも周りの人を幸せにしていこうと

やらないといけないことを、真剣に本気で誠意をもってやってください。絶対に手を抜かないで、とにかく真剣に。そうしたら、いつか自分の役割が必ずわかるでしょう。そして、世の中で役に立つ人になってください。



3学年副担任 平野 順子

ご卒業おめでとうございます。私自身この一年間全体的に初めてで、みなさんには色々な場面で助けてもらうこともあり、たくさん感謝の気持ちでいっぱいです。校庭や体育館で元気に走る姿や楽しそうに笑う大きな声など……。そんな毎日の当たり前の一コマ一コマは、私自身の元気の源になっていました。とても幸せなことです。晴れていて穏やかな日ばかりではなく、暑さ厳しい夏の日、雨風の強い日、雪の降る寒い日。それでも変わらないのは、みなさんの元気で明るいエネルギー溢れる姿でした。それは、当たり前の毎日

を過ごせる幸せ、それを支えてくれた家族、仲間と過ごしたこの時間は、幸せのたくさん詰まった素晴らしい時間です。これから巡り会う縁を大切に、そして、自分を大切にこれからも頑張ってください。応援しています。



3学年副担任 永岡 宏美

美しいものが好きでした。それは、母親のたたむ折り目のただし着物であったり、友人の描く哀しみを含んだ紫陽花であったり、恩師の私たちをみつめる柔らかなまなざしであったりしました。私は学生時代、自分という者に対して無自覚であったように思います。けれど三十四歳の今、反芻するように記憶を辿ってゆくと、わたくしという現象に触れては明滅する青い春のただ中に存在していたように思います。思春期というからでも心も大きく変化していく時期、そして何者でもないあなたが、何者かになってゆく自我の確立の時期。人間一人ひとり誰からも拘束されない独立した存在であることを明確にした上で、人間は一人では決して生きていけないことへの自覚が必要なのかもしれません。自他を愛することのできる人になってください。御身お大事に。

美しいものが好きでした。それは、母親のたたむ折り目のただし着物であったり、友人の描く哀しみを含んだ紫陽花であったり、恩師の私たちをみつめる柔らかなまなざしであったりしました。私は学生時代、自分という者に対して無自覚であったように思います。けれど三十四歳の今、反芻するように記憶を辿ってゆくと、わたくしという現象に触れては明滅する青い春のただ中に存在していたように思います。思春期というからでも心も大きく変化していく時期、そして何者でもないあなたが、何者かになってゆく自我の確立の時期。人間一人ひとり誰からも拘束されない独立した存在であることを明確にした上で、人間は一人では決して生きていけないことへの自覚が必要なのかもしれません。自他を愛することのできる人になってください。御身お大事に。

中大連携授業

中学三年生は、二月十二日(水)に、宇都宮文星短期大学にて、中大連携授業を行ってきました。

今回の内容は、調理実習でした。テーマは和食ということで、ぶり大根ときんぴらを作りました。短大の先生や学生の方々から丁寧な指導を受け、おいしい料理を作ることができたことと、本場の和食に触れる良い機会となりました。

生徒の感想

三年二組 飯藤 南美

私たち三年生は、二月十二日に文星短期大学との中大連携授業で調理実習をしてきました。

今回作ったのは、今話題の日本食です。

私たちは中学三年生なので、短大の先生方の「これからが脂ののる時期。そして出世していったほしい」という願いから、主食は、出せ魚といわれるぶりのカマを使った、ぶり大根を作りました。きんぴらも一緒に作りしました。

ぶり大根では、ぶりを切ったり、鱗をとることが大

変でした。きんぴらは、人参の皮を包丁でむくのが大変でした。どれも、先生や短大の先輩方に教えていただき、無事に作る事ができました。

作った料理は私たちの昼食になりました。ぶり大根は、カマを食べるのが大変で、きんぴらは味が濃く、辛かったけれど、おいしかったです。

この授業で、料理を作る大変さと楽しさを学ぶことができ、楽しい調理実習になりました。



調理実習の様子

社会体験学習

中学三年生は、二月十四日(金)に、社会体験学習として、筑波宇宙センターに見学へ行ってきました。

最初に見学した筑波宇宙センターでは、あの「きぼう」の船内実験室の中を見る事ができました。さらに、歴代ロケットの模型を見て、日本の技術のすばらしさに感動しました。夜空のはるかかなたの宇宙が、とても身近に感じられました。宇宙食の研究開発も興味深かったです。

三年一組 山本 萌絵

筑波宇宙センター、産業技術総合研究所は、わが国の宇宙開発や産業技術のすべてを知ることが出来る場所でした。

最初に見学した筑波宇宙センターでは、あの「きぼう」の船内実験室の中を見る事ができました。さらに、歴代ロケットの模型を見て、日本の技術のすばらしさに感動しました。夜空のはるかかなたの宇宙が、とても身近に感じられました。宇宙食の研究開発も興味深かったです。

産業技術総合研究所では、日本の産業技術を使って作られた機械やロボットなどを見ました。なかでも印象に残ったのは、鏡の世界での対話システムというものです。近くにいらなくても、画面では、その人と映っている、一緒にいるような雰囲気を感じるといえるので、とてもおもしろかったです。

今回の見学を通して、日本の宇宙に関する技術は日々発展していることがわかり、とても誇らしく思いました。近い将来、私たちも宇宙に行ける時が来ると確信できました。

スキー教室

一・二年生は、二月十二日(水)から十四日(金)の二泊三日でスキー教室に行ってきました。場所は、昨年と同様、軽井沢プリンスホテルスキー場です。

一日目、二日目は天候にも恵まれましたが、三日目は朝から雪が深々と降り、予定を約一時間早く切り上げ、学校へ帰ってきました。三日間のスキー教室では、初めてスキーをやる生徒も多い中、日に日に上達が見られ、冬の大自然の中、スキーを満喫することができました。

生徒の感想

一年一組 小倉 千可子

私は、二月十二日から三日間スキー教室に行きました。久しぶりの宿泊だったので、とても楽しみにしていました。また、家族ではスキーに行ったことがありますが、友達と行ったことはなかったもので、一緒に滑りたいなと思っていました。

スキー教室はすべてが楽しかったです。バスの中ではみんなと話し、スキー講習では、難しいことをたく

さん学びました。スキー講習中や昼食の時は二年生と一緒に行動したので、二年生とも少し仲良くなれました。部屋では、友達と一緒に話したので、学校で話さないようなことなど、たくさん話をすることができ、友達のことをもっと知ることができました。

来年はスキー教室が最後なので、来年入ってくる一年生と仲良く滑りたいです。これから二年生になるので、今の二年生と同じようにやさしく先輩に接していきたいです。

一年二組 篠原 咲陽

今回、私は人生初のスキーへ行ってきました。私はスキーというスポーツに対するイメージが全くなく、どういうものなのかよくわかりませんでした。ですから、私は行く前、上手に滑ることができるとかどうか心配でした。

当日、スキー板をはいてみると、やはりたくさん転び、仲間をはじめ多くの方に迷惑をかけてしまいました。しかし、転べば転ぶほど上手にスキーが滑れるようになってきて、とても嬉し



頂上にて



レッスン中の様子

かったです。インストラクターの方が「百回転べば、一歩上手になるよ。」と仰ってくださいました言葉通りだと実感しました。

スキーに行く前は全くイメージできなかった私が、この教室で急な坂を滑ることが出来るまでに上達できたのは、たくさん転び、たくさん起き上がったからだと思います。

私生活でも、このスキーのようにたくさんつまずいてもその都度、起き上がっていきなさいです。

立志式

二月十七日(月)の六・七校時に、二年生の立志式が行われました。一人ひとりが将来を見据えた志を立て、式では代表者が誓いのことばを述べました。その後、二年生による立志記念発表会も行われました。

【立志作文】

二年一組 黒田 燎

将来何をしたいか、まだはつきり決まっている訳ではないが、人の役に立つことをしたいと思っている。東日本大震災の経験を通して、そう考えるようになった。震災直後から一週間程度の断水があったが、数日後からは水の配給があったため、何とか生活することができた。この時期はガソリンもなく、電車なども動いていなかったため、移動は自転車だった。だからこの配給はとてもありがたかった。配給がない時は、近くの箱に入れ、溶けてきた水をトイレに使っていたぐらいだった。そのような中で、津波が来たときに自分を犠牲にして他人を避難させた消防官や自衛隊などの

話をテレビや新聞で見聞きした時にとっても感動した。これも人のために役立つ事をしたと思った理由の一つだ。

人のために何かを行うには、視野を広げることが必要だと思う。様々な人の立場から物事を見られるようになり、適切に対処できるようになると思うからだ。

その視野を広げるためには、本を読むことが重要だと思っている。特に伝記は、有名な人物の生き方を学ぶことにより、大きく視野が広がると思う。だから、これからは本をたくさん読み、物事を色々な視点から見えて、考えて行動したいと思う。

自分の望む将来になるかは、今の生活にかかっている。諦めず努力していきたい。

二年一組 豊岡 賢人

僕の将来の夢は、電車の運転士です。なぜなら、いかというと、人の役に立つ仕事をしたいからです。運転士の場合、人を安全に正確な時間に届けるというところで人の役に立つことができます。電車は時間にとっても厳しいです。駅を発車する時、通過する時、停車す

る時の時間すべてが秒単位だからです。もし、時間通りに運行できなければ、後続の電車にも、お客様にも迷惑がかかってしまいます。こういうところがしつかりできるからこそ、日本の電車は信用されているのだと思います。僕も時間に厳しい中で頑張って働きたいです。

運転士になるには、駅員・車掌の順に仕事を覚え、働いてからでないといけません。とても厳しく大変な道のりです。しかし、厳しいだけではなく、とても楽しい仕事でもあると思います。色々な景色を見ることが出来るし、手を振っている小さい子がいたら、とても嬉しい気持ちになるでしょう。だから僕は、社会的に意義があると思う電車の運転士になりたいです。

二年二組 柳沼 萌加

私の夢は、子供と触れ合える仕事に就くことです。具体的に言うと、保育士になりたいと思っています。小さな子供が大好きで、また、自分の幼稚園の頃の経験からも保育士に憧れています。二年生の夏に行った職場体験学習では、希望し

ていた保育士の仕事を体験することが出来ました。保育園で、たくさんのお世話する子供たちを一度にお世話することはとても大変でしたが、園児たちが楽しそうに遊んでいた、おもしろい、ご飯を食べさせてくれる、とても嬉しくて、大変という気持ちなど忘れてしまいました。指導して下さった保育士の方が「慣れれば大丈夫だよ」と言って下さったことも、とても支えになりました。これらの経験は私にとってとても貴重で、職場体験が出来て、将来の参考になりました。本当に良かったです。職場体験を通して、また改めて保育士になりたいという思いが強くなりました。

立志式は、一つの節目だと思います。この節目に自分をもう一度見直して、生活面でも勉強面でもより良くなるようにしたいと思えます。また、今まで自分を育ててくれた親や周りの方に感謝する事を忘れないようにしたいです。当たり前の事が当たり前に出ていなくなると、それがしつかり出来るようになる人になりたいです。

新生徒会役員紹介

第八期生徒会役員の選出が行われ、新生徒会役員が決定しました。心機一転、また新しい風を吹かせてくれそうです。

生徒会会長 薄羽 珠ノ介
副会長 永井 友理

役員 和知 由莉嘉
鈴木 弥沙人
秋葉 千明
松本 芙美子
岡本 潮音
土井 珠良
水戸 ゆい

新生徒会長挨拶

生徒会会長 薄羽 珠ノ介
学年末を迎え、本年度も残すところあとわずかとなりました。今回の生徒会役員選挙は、多数の立候補者が出た中での選挙となりました。新しい生徒会のメンバーが決まりましたので、ご報告させていただきます。

第八期生徒会では、前期出来なかったことも改めて考え直し、ぜひ実現実行していきたいと思っています。そして、もっと学校生活を盛り上げ、より充実した生徒会にしたいと思います。

表彰関係

第三十四回 宇都宮地区

中学校剣道錬成大会
【男子】第三位
二年二組 薄羽 珠ノ介

【女子】第三位
一年二組 松本 佐和子

第六十五回 栃木県

学校教育書写書道作品展

【特賞】
三年一組 酒井 貴寛

【金賞】
一年二組 水戸 ゆい

【銀賞】
一年二組 菅野 美帆
中根 菜摘
岡本 潮音

二年一組 神山 颯季
野口 一樹
増渕 琴音
村山 佑香

三年一組 井上 友貴
三年二組 石川 綾乃
中村 峻輔



文星フォトギャラリー



予饞式・予饞会



ジョイントコンサート／音楽部・和太鼓部



社会体験・スキー教室／中学校